

# 第3回 発達を見守る会

保護者支援

# “気になる子”の保護者の気持ち



## こどもの誕生 Ⅱ

大きな喜び♪ こどもは可愛い♪  
基本的に子育てはたのしい♪

でも...

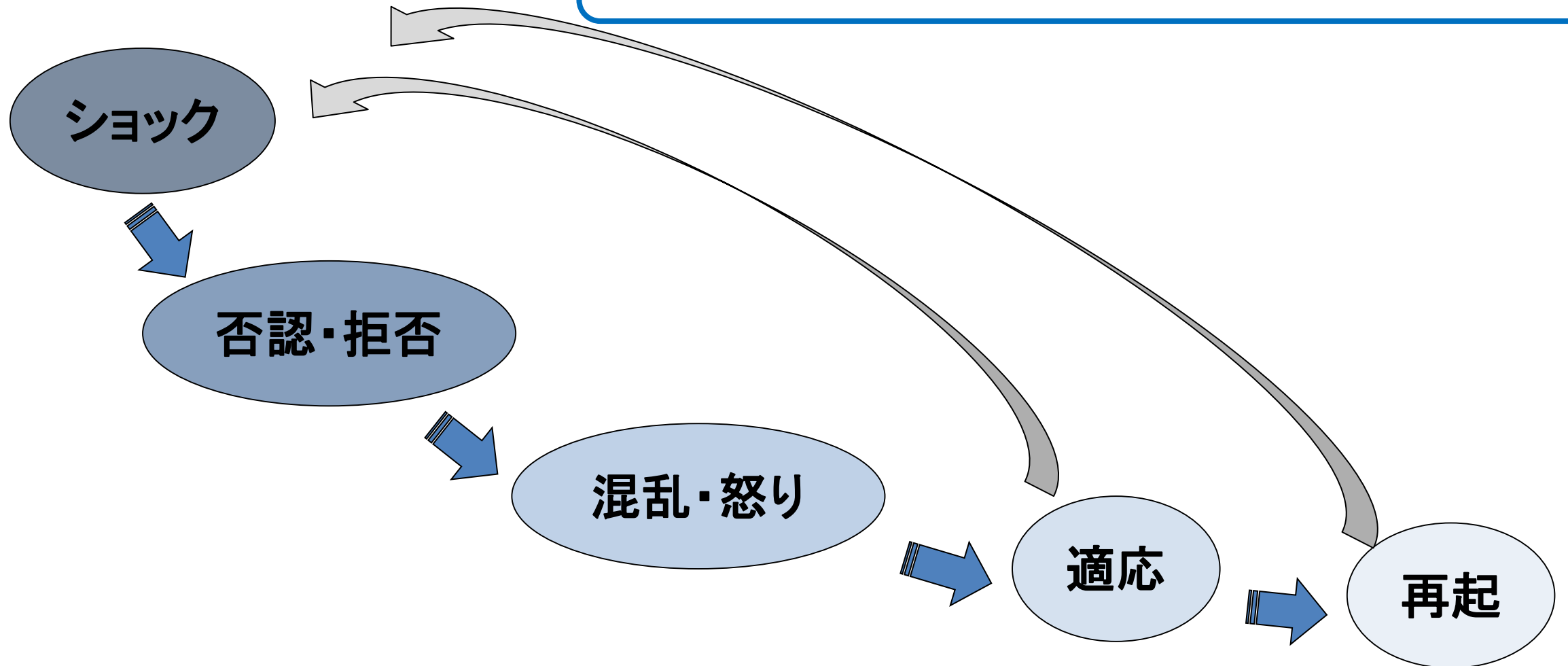
- ・愛着が築きにくい
  - ・子育てへの不安
  - ・育児ストレス
  - ・孤立(父親の育児への非協力的・きょうだいのこと等)
- \* 乳幼児期から育てにくさに悩んでいる場合は少なくない



“うちの子だけ?” “育て方のせい...?”

# 障がい受容 保護者の心の変化

- ・障害受容は、子どもと家族のライフサイクルの中で何度も揺らぐ
- ・行きつ戻りつの時間が大切



# “気になる”を指摘されることに抵抗がある 保護者の気持ち

- ・ 育て方を否定された。
- ・ こどものことを「変な子」「おかしな子」という目でみられた。
- ・ こどもを障がい児にはしたくない。

ショック

否認・拒否

発達のアンバランス(凸凹)に対する気づきがないと、  
自身を否定されたように感じてしまう

(気づいていてもまだ受け入れられないのかもしれない)

混乱・怒り

➡ 厳しく躰ける、思うように育たないことへの失望

# 受容するには・・・

- こどもの“気になる”を受け止めるには時間が必要。

初めから完璧な親はいない

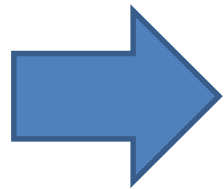


- *親は*  
こどもとの関係を通して  
パートナーとの関係を通して  
地域社会や親集団を通して
- } 親になる

☆障がい受容のスピードや展開は個々に異なる

# 保護者との共有の難しさ

- こどもの“気になる”に気づいても  
保護者に伝えるとなると  
「言っていないんだろうか・・・」  
「反発をかって関係がこじれないか・・・」



声かけが難しい



# 保護者とどう関わっていけばよいか

**ステップ1** 日々の関わりでできる保護者支援  
～“ちょっと気になる子”をどう伝えるか～

**ステップ2** 専門機関の受診が必要だと感じたら



# ステップ1 日々の関わりでできる保護者支援

1. 日々の関わりの中で感じたその子の“困り感”を  
保護者へ伝える。
  - 困っているのは(将来、困ることが起きそうなのは)  
その子(こども)自身!!
2. 家庭での様子や保護者の困り感を確認。あわせて、家庭でどのような関わりをしているのかを教えてください。
  - 家ではどんな様子なのか。保護者の困り感はない？  
園や学校などと家での様子にどの程度の違いがあるのか確認。
  - 関わりを一方通行にしない!!“一緒に考えていきましょう”



### 3. 関わりの中で上手くいった点・上手く対応できなかった点を保護者と共有する。

- “～ができませんでした”の報告だけでは、保護者の焦りや不安が大きくなる。



- ★ 繰り返すことで、保護者のその子への理解を深めていく。
- ★ 保護者との共通理解を図る。
- ★ 保護者に“ひとりではないよ”のメッセージを伝えていく。

**関わりの中では保護者の価値観を否定しない！**

## ステップ2 専門機関の受診が必要だと感じたら

1. 専門機関に相談する目的を丁寧に説明する。
  - 診断名をつけてもらうことが目的ではない。その子を理解し、より良い関わりを考えていくため。
2. 受診後も関わりは途切れないことを保護者に分かってもらう。
  - 園や学校から見捨てられたと感じる保護者もいる。専門機関のアドバイスをもらいながら、より良い関わりを今後も一緒に考えていきましょうとのメッセージを伝える。

# こどもの気になるを受け止めるには時間が必要

～現実的には、ステップ2から話をすすめることは難しい。



日々の関わりを通して、  
保護者がその子を理解し、受け止めるのをサポートする。

こちらの思いがすぐに伝わらなくてもあきらめない。  
この関わりをスタートとして、今後も繋がっていく。